## 一誌一句(受贈誌 4 ・ 5 月号他より)

## 米田 透 抄出

(風) (信濃俳句通) (信濃俳句通) (電) (電) (電) (電) (電) (電) (電) (電) (電) (電	棟上げの柱吊り上ぐ雪解晴	陽炎にここまでおいでと呼ばれても	春雷をひたすらに恋い避雷針	春の鳶港の空に飼はれゐる	種蒔くや思ひ通りに行かぬ事	南無翼異状は無きや鶴帰る	梅柄の大島母に重ね掛け	春泥を踏みつけ戦車居間に入る	紅梅の中の真青な空を撮る	猪口才なる小学生のゐる炬燵
	(風 港)		(形象)	(運 河	(信濃俳句通信	(湾	<ul><li>壶</li></ul>	(青岬	(鴫	金蛮
	雅雪	霧海	修	智 行	文子	洋文	千草	次郎	峰 子	英一